令和４年度　研究紀要

教員養成研修における、受講者の学びがつながる一体的な研修デザインの一考察

茨城県教育研修センター
教職教育課
指導主事　小林　宏美

はじめに

令和４年度（令和３年度実施）公立学校教員採用選考試験の実施状況（令和４年９月９日公表文部科学省）（図１）では、全体の競争率（採用倍率）は、3.7倍で平成３年度と同率で過去最低となっており、教師の確保が課題となっている。茨城県においても、令和３年度と比べて0.6ポイント高くなっているものの競争率は3.3倍で、全体より0.4ポイント低い状況となっている。これらの状況から、本県においても、質の高い教師の確保に向けた各種の取組が求められてると考える。

また、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築～（中間まとめ）（令和４年10月５日中央教育審議会　「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会）（以下、中間まとめという）では、「『教師不足』が社会課題となっている中にあって、教職の魅力向上が求められている」こと、「教員養成大学・学部、教職大学院においては、子供の学びを支える、専門的かつ創造的な高度職業人としての教師像の確立に向け、教育委員会と積極的に連携・協働し、養成・採用・研修等の一体的な充実に取り組んでいくことが求められる。」ことが示された。

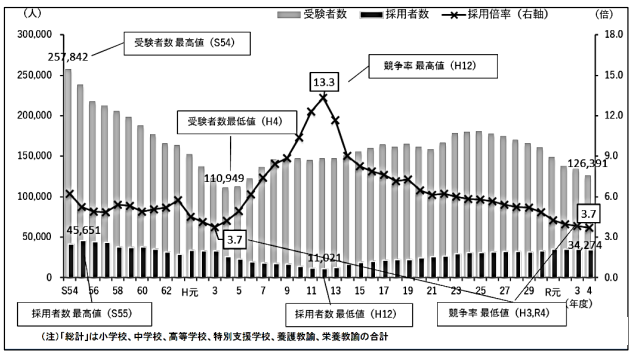


図１　総計　受験者数・採用者数・競争率（採用倍率）の推移

令和4年度(令和3年度実施)公立学校教員採用試験の実施状況のポイントより

はじめに

これらのことから、教員の魅力に気付き、教員になることへの意欲を高めて教員を志望する人材を育成することは、茨城県教育研修センターにおける重要な役割であると考える。

当センターでは、これまで、県内の公立学校の教員になることを目指す大学生等に対し、教員として必要となる素養を高める「いばらき輝く教師塾」を実施してきた。令和４年度は、大学１年生以上が対象の教師塾Ⅰ期には200人、原則大学３年生以上が対象の教師塾Ⅱ期には、371人が参加した。（資料1）

いばらき輝く教師塾Ⅱ期では、「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」（平成30年２月茨城県教育委員会）において定められた「採用時の姿」を踏まえ、「県内の公立学校の教員を目指している者に対し、教員として必要となる素養を高めるとともに、教育現場で実際に必要なスキルや考え方に触れ、教員になることへの意欲を高める。」ことを目的として４日間の研修を実施した。

資料１　「令和４年度いばらき輝く教師塾受講者数」

合計	Ⅰ期	Ⅱ期	合計
	200	317	517

学年別	１年次	２年次	３年次	４年次	大学院	講師等
Ⅰ期	94	87	15	3	1	0
Ⅱ期	0	2	281	11	4	19

大学所在地別	県内	県外
Ⅰ期	154	46
Ⅱ期	211	87

はじめに

前述の「中間まとめ」では、「教師の学びの内容の多様性と、自らの日々の経験や他者から学ぶといった『現場の経験』も含む学びのスタイルの多様性を重視するということも重要である。この観点からも、教師の個別最適な学びの実現のみならず、協働的な学びを実現していくことが必要」であり、さらに、「教師としての職能成長は、養成段階から既に始まっている。」としている。

これらのことから、現場経験の豊富な指導主事が経験を基に伝える講義と、体験やグループでの協議を中心とするワークショップを組み合わせた研修を実施することとし、研修の縦のつながりをデザインする視点で「各日の研修の充実を図る取組」を行った。また、受講者にとっての研修が、１日で完結し途切れることのないような研修とするために、４日間の研修を横のつながりでデザインする視点で、「受講者の学びをつなぐ所内の体制づくり」を行った。さらに、当センターでは、受講者が安心して研修に専念できる環境づくりにも力を入れている。地方から来所する受講者が安心して研修に専念できるよう「受講者を迎える環境づくり」にも取り組んだ。安心した環境の中で、４日間を縦と横でつなぐ研修をデザインし、教員になることへの意欲を高める教員養成研修を目指した。

以下に４日間の概要をまとめた資料を示した。教員になることへの意欲を高める研修デザインの一助となることを願う。

研修の目的

○　県内の公立学校の教員を目指す方を対象にワークショップ等の研修を行い、**教員として必要となる素養**を高める。

○　教育現場で実際に必要なスキルや考え方に触れ、教員として**基本的な技能**を身に付ける。

教員になることへの意欲を高める。

研修の日程　いばらき輝く教師塾Ⅱ期

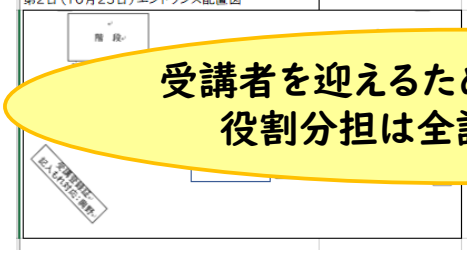
回	実施日	時間	講座名
1	10月　2日（日）	9:30～12:30	開講式、所長講話、講義「教員の使命と服務」 講義・演習「キャリア教育とは」
2	10月23日（日）	9:30～15:15	講義・ワークショップ①「児童生徒理解」 講義・ワークショップ②「学級づくり」
3	11月13日（日）	9:30～15:15	講義・ワークショップ③「授業づくり」 ワークショップ④「模擬授業」
4	12月　4日（日）	9:30～15:00	講義・ワークショップ⑤「教育相談」 講義・演習「教員のワーク・ライフ・バランス」 講話「教職をめざすにあたり」、閉講式

受講者を迎える環境づくり

運営に関わる担当割り振り表

期日 / 講座担当課 / 主な内容	10月2日(日)	10月23日(日)	11月13日(日)	12月4日(日)
	教職教育課 (オンライン)	午前:特別支援教育課 午後:教職教育課	教科教育課	午前:教育相談課 午後:教職教育課
【朝:友部駅】 バス乗車対応 【昼食時】 研修室の巡回 【講座終了後】 各研修室片付け		相談: 教科: 教職:	支援: 教職:	支援: 教職:
【朝:エントランス外】 バス降車・案内 【昼食時】 研修室の巡回 【講座終了後:エントランス外】バス乗車・案内		情報: 教職:	相談: 教職:	教科: 教職:
【朝:エントランス】受付:健康観察票回収 受講登録証回収 (第2日のみ) 【講座終了後】 各研修室確認		教科: (健康) 教職: (健康) 教職: (受講) (受講) ※詳細は下記配置図	相談: 情報:	支援: 情報:
【朝:エントランス】受付(検温忘れ) 総合案内 【昼食時】 研修室の巡回 【講座終了後】 各研修室片付け		相談: 企画:	支援: 企画:	教科: 企画:
配信機器、zoomへの対応	情報:	情報:	情報:	情報:

第2日(10月23日)エントランス配置図



受講者を迎えるための運営に関わる
役割分担は全課で担当した。

感染症対策を徹底することで
安心感を生み出しながら受講
者を温かい雰囲気で出迎えた。

受講者の「学びをつなぐ」体制づくり

全課の担当者用スペース

47. 教職教育課 2022年10月25日 (火) 14:57
教師塾Ⅱ期担当の皆様

お世話になっております。
所員会議で所長からお話いただきましたが、第2日が無事に終了いたしました。
担当課の皆様、当日担当の各課の皆様には、朝早くからご協力をいただきありがとうございました。第2日のご報告として、以下の資料を添付

①第2日の様子(写真、受講者アンケートから)
②第2日実施計画
③名簿(10月24日現在)

①:各課で情報共有いただけるとありがたいです。
②、③:必要に応じてご使用ください。

第3日は11月13日となります。どうぞよろしくお願いいたします。
教職 小林

①第2日の様子(写真、受講者アンケートから).docx [詳細] 2 MB
②第2日実施計画.docx [詳細] 29 KB
③041024各課送付名簿.xlsx [詳細] 37 KB
7 確認しました 返信する

46. 教職教育課 2022年09月16日 (金) 14:43
教師塾Ⅱ期担当の皆様
(教師塾全体に書き込んでいたので、Ⅱ期に再度書き込みます。)

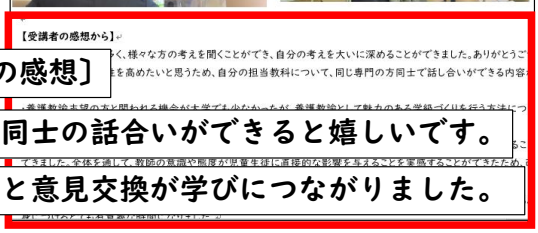
お世話になっております。
各課担当の皆様からいただいた内容を基に、「教師塾Ⅱ期 担当割り振り表」を作成いたしました。ご確認をお願いします。また、各課の皆

お気

共通理解、研修内容の確認は
スペースの書き込みを活用して
円滑に実施した。

研修の様子や
受講者の声の配信

研修内容と受講者の感想を
配信し、受講者のニーズや
よい学びを次回の研修に
つなげられるようにした。



〔受講者の感想〕

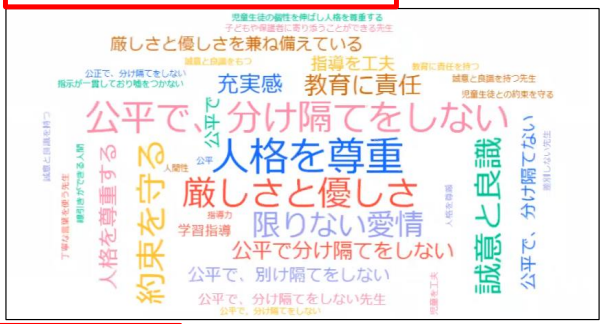
専門の方同士の話合いができると嬉しいです。

多くの人と意見交換が学びにつながりました。

第１日　１０月２日　オンラインによる研修

所長講話

信頼される先生とは



講義・演習「教職員の使命と服務」

学び続ける教師とは

- 先生の健康と笑顔が、子供にとって一番大切です。
- 小学校学習指導要領の前文には、このような言葉があり
- 「…一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよることが求められる。…」
- 子供が自分のよさや可能性を認識し、他者を尊重する。いった自己肯定感を持つためには、子供一人一人を支える先生自身が自己肯定感を高め、心の余裕がある状態で子供にどっしり向き合っていただけることが大切だと思います。

講義・演習「キャリア教育とは」

各日の研修の充実を図る取組（第１日）

目的

多様な人との出会いの大切さに気付く。
学ぶ意欲を喚起する。

手立て

- 求められる教師像、教員の使命、キャリアなど教員を志す受講者に伝える思いを中心に第１日の講義を構成した。
- 希望校種、学年、学校、学生と社会人などが混在したグルーピングによる意見交換の場を設定した。

受講者の感想より

茨城県の求める教師像を深く学ぶことができ、茨城県の教員になりたいとより一層考えるようになった。

普段、交流することのできない他大学や異年齢の方々と意見交換ができ、自分では思いつかない考えがたくさんあって新鮮だった。

多様な意見を聞くことができて見方が広がった。
経験のある先生方のお話は大変勉強になり、貴重な時間だった。

第2日　10月23日

講義・ワークショップ
「学級で気になる子供への支援の実際」

子供への対応や支援を考える
グループ協議

講義・ワークショップ
「魅力のある学級づくり」

学級開きで思いを伝える
話し方

各日の研修の充実を図る取組（第2日）

目的	志を同じくする人との対話から、気付きや学びを得る。
手立て	・ワークショップでは、初めての対話の緊張を考慮し、個人で考えを整理する時間を確保した。 ・対話によって、よりよい支援と話し方を協働的に考えるワークを実施した。

受講者の感想より

実際に同じ教員を目指す仲間と出会い、討論し、学級の児童生徒に対する理解や考え方の幅が広がった。6時間があっという間に感じるほど楽しかった。

対面のワークショップでは、たくさんの自分にはない考えを聞くことができて、教員同士で連携する大切さもこのようなことであるなと感じた。

教師塾に参加して色々な学校の同じ夢に向かっている方々と意見交換ができ、充実した時間であった。話合いでは、私になかった視点を得たり、尊敬する部分を見いだせたり、人としての成長を感じる学びがたくさんあった。

第3日　11月13日

講義・ワークショップ
「一人一人の子供が主体的に取り組む授業づくり」

グループごとに授業計画を作成

授業計画を基に模擬授業

各日の研修の充実を図る取組（第3日）

目的

一人一人の子供が主体的に取り組む授業づくりを体験的に学ぶ。

手立て

- 教科及び校種、養護教諭等、希望に応じたグループ編成を行った。
- 児童生徒役と教師の両面から授業を体験できるよう、授業体験、協働立案、模擬授業を実施した。

受講者の感想より

同じ教科、校種を目指す方と班になって授業づくりをするという経験が出来て良かったです。複数人でひとつの授業を考えることによって、自分一人では思いつかなかった活動や生徒への声かけを知ることができた。実践的な授業作りの経験と、他のグループの模擬授業の参観が、とても楽しく学びが多かった。

実際の教材を用いて、初めて会った人と、それぞれが学んできたことを共有しながら授業作りに励む中で、自身にはなかった視点を得ることが出来て良かった。緊張したがいい経験になった。

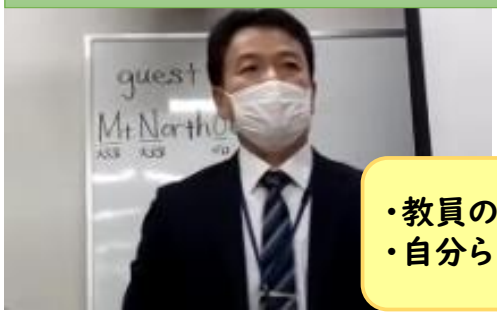
グループで取り組んだことで、お互いの考えを活かしながら、授業をより良いものにしていくことができた。「こうしたら子どもたちは楽しく学んでくれるのではないか」と、具体的な子どもたちの姿を想像しながら授業を考えるのはとても楽しかった。現場に出た際も、楽しみながら授業を作れるようにしたい。

第4日　12月4日

講義・ワークショップ「一人一人の子供を大切にする教師の関わり」

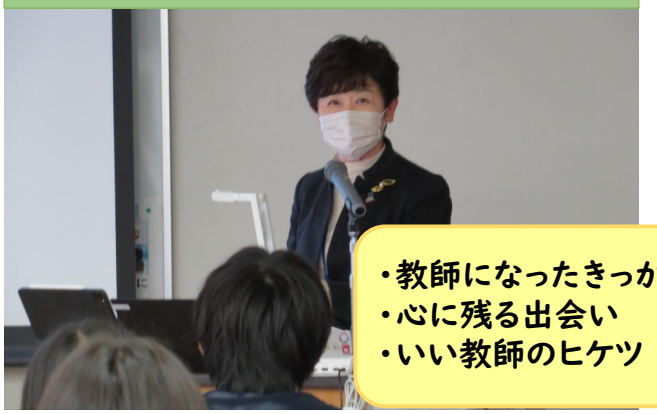
非言語表現を意識した
関わり方をロールプレイ

講義「教員のワーク・ライフ・バランス」



・教員のやりがい
・自分らしい生き方

講話「教職を目指すにあたり」



・教師になったきっかけ
・心に残る出会い
・いい教師のヒケツ

各日の研修の充実を図る取組（第4日）

目的	同じ夢に向かう仲間との絆を深め、教員への想いを確かにする。
手立て	・対話を重視して講義・ワークショップを実施した。 ・４日間で感じた教師の魅力や自己の学びを振り返る場を設定した。

受講者の感想より

ペアやグループ活動が多く、色々な人と意見を交流することができて、今までの自分には思いつかないような考えと出会い視野を広げることができた。同じ茨城県の教員を目指す人たちと一緒に勉強をすることができた4日間は、新たな繋がりも得ることができ充実した時間となった。今後はこの4日間で得た学びを糧に、教員採用試験にむけて一層勉強に力を入れていきたい。そして、私が生まれ育った茨城県の教員になってこれからの社会を担っていく子供たちの育成に全力を尽くしていきたい。

同じ夢を持つ仲間がこんなにもいるのかと驚くと同時に、みんなに出逢えて学びあえたことが嬉しかった。また、講義やワークショップの中でそれぞれの教職への想いを聞くことが出来たり、授業作りの考え方を知ることが出来たりして、自分の成長を感じることができた。そして、何よりこの4日間の研修を通し、私の「教師になりたい」という気持ちが一層強まった。この貴重な体験を生かし、これからも教員を目指して学修に励みたいと思う。

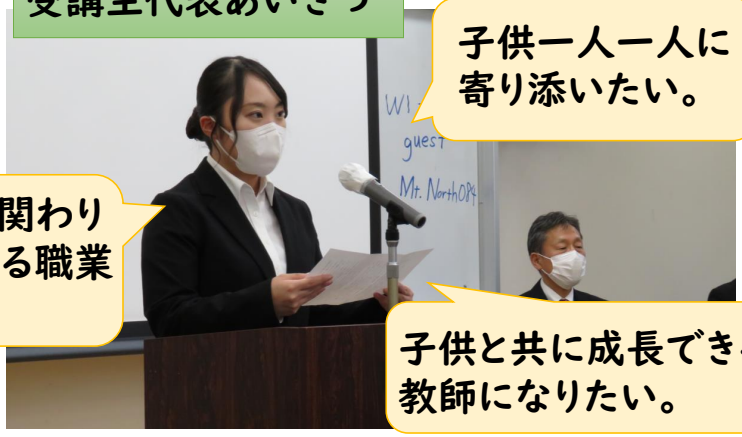
第4日　12月4日　閉講式

猪瀬所長から

教員は、子供との関わりの中で、学び続ける職業である。

修了生294名に修了証授与

受講生代表あいさつ



子供一人一人に寄り添いたい。

子供と共に成長できる教師になりたい。

教師塾では、他の受講生の考えやる気を感じることができ、一人一人の熱量を感じられて、とてもよい経験となった。

大学では、養護教諭志望の方と関わる機会が少なかったため、ここでの関わりで、自分の夢への思いを強くすることができた。

4日間を終えて
（受講者の感想より）

多くの方と共に学び、自分になかった視点を得て、人として成長できた貴重な機会だった。

教師は、人の人生に関われる、自分自身も成長できる、とても魅力とやりがいのある職業だと思った。

茨城県の教員になりたいと思いますか。

	申込時 （6月）	4日間終了後 （12月）
思う	８３．０％	８８．６％ **+5.6%**
迷っている	１７．０％	１１．４％

教員になることへの意欲が高まった。

おわりに

研修の縦のつながりをデザインする視点である「各日の研修の充実を図る取組」、4日間の研修を横のつながりでデザインする視点である「受講者の学びをつなぐ所内の体制づくり」、さらに、受講者が安心して研修に専念できるよう「受講者を迎える環境づくり」に取り組むことで、教員になることへの意欲を高める教員養成研修を目指した。

体験・経験を活かして協働的に学ぶ「各日の研修の充実を図る取組」は、受講者にとって、同じ教職を志す仲間づくりにつながり、教職への意欲を高めていた。指導主事の現場経験に基づいた講義に、真剣なまなざしで聞き入り、自らを高めようとする主体的な態度が見られた。

4日間の研修を横のつながりでデザインする視点である「受講者の学びをつなぐ所内の体制づくり」では、目的の共有と互いの意思疎通が大切であると感じた。全所員に向けた広報活動なども実施した。円滑な共有においては、ICTの活用が効率的であったが、一方で、対面で丁寧に疑問を解消しながら、協働して作り上げることの大切さも再認識した。

「受講者を迎える環境づくり」では、担当者が協働することで、安心して受講に専念できる空間を作り出すことができた。また、何よりも、エントランスで出迎えや見送りをすることによって、職員が受講者の笑顔を見たり、充実した研修への喜びの声を聞いたりしたことは、センター職員としての励みにもなり、自分たちの取組への評価を感じることができた。

次年度は、初任者研修受講者対象のアンケートで「大学時代までに学びたかった内容」として多く挙げられた「ICTを活用した授業づくり」の講義・ワークショップを実施することとなっている。今後も受講者の教員になりたいという意欲を高めるため、研修デザインの充実を図っていきたい。